



# 太平洋の美しい島国 ミクロネシア連邦 ～レインボーネシア～

駐日ミクロネシア連邦大使館 特命全権大使 ジョン・フリッツ



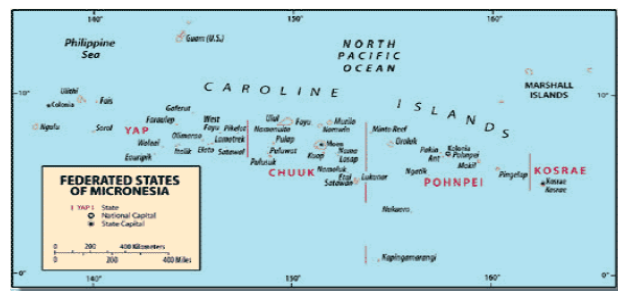
皆さんこんにちは。日本ITU協会とはITUジャーナルに日本での生活についてのエッセイを載せていただいた関係で、そして、またこのような形でたくさんのメンバーとお会いでき大変うれしく思います。ITUクラブの森会長をはじめメンバーの方々に感謝申し上げます。本日出席されたメンバーの中に旧知の方もいらっしゃるとてもうれしく思いました。

さて、我が国を紹介するにあたって少し説明いたします。ミクロネシアという国についてはきっとサイパンとかガムの印象を持っているのではないのでしょうか。ミクロネシアとはその地域を総称する呼び名で、ミクロネシア連邦は、その中の一つの国です。それでは国について説明いたします。

## 1. ミクロネシア連邦について

ミクロネシア連邦 (FSM) は、ヤップ、チューク、ポンベイ、コスラエ、の4州から成り立っています。西の端 (ヤップ) から東の端 (コスラエ) まで、その距離2,550キロメートルにも及びます。4州はそれぞれ、一つないし二つ以上の海拔が高い山を中心に構成されており、コスラエ以外の3州には、数多くの環礁があります。

607の小さな島々と環礁から成る島嶼国です。一般的に、東・西カロリン諸島という名称でも知られています。国土の面積は、総計約700平方キロメートル (日本の奄美大島と同規模) しかありませんが、太平洋上の780万平方キロメー



ル以上の海域に散らばっています。島嶼国の中では三番目の経済水域を所有しています。

ヤップ州は、四つの大きな島と七つの離島、及び134の環礁で構成され、総陸地面積は、120平方キロメートルです。ヤップは、ミクロネシアで一番好奇心がそえられる島です。きっとそれは、古い伝統や魅惑的な伝説に包まれ、太平洋諸国の中でも非常に特色ある文化が多く残っているからでしょう。海辺にあるメヅハウス、村の伝統・文化を見聞するビレッジツアー、古代の巨大石貨 (ストーンマネー) と石貨銀行 (マネーバンク)、様々な手工芸品 (ハンドクラフト)、海洋生物、マングローブ林といったものが、この島の魅力を際立たせています。伝統的な踊りに使用する衣装は今でも日常使われています。また、世界一大きい貨幣である石貨は現在も使われています。例えば、婚礼の際 結納金として使ったり、家を建てる時材料の費用に充てています。各自の管理もありますが石貨銀行 (ストーンマネーバンク) で主に管理しています。

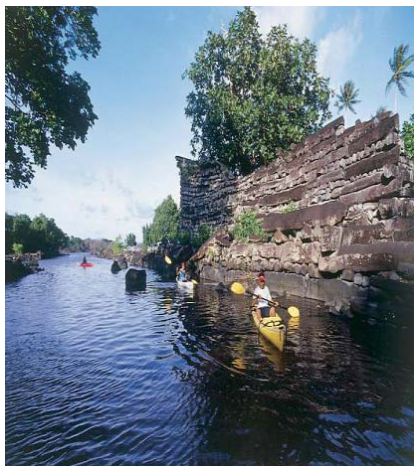
チューク州は、陸地面積が88平方キロメートルあり、七つの大きな島から成る群島です。チューク、巨大なトラック環





礁の中の島々は、たくさんの自然美に満ちあふれています。トラックラグーンの海底に眠る沈船は、世界で最も好奇心を駆り立てるものの一つだと考えられています。チュークラグーンの深海には、40を超える沈船や墜落機の数々が眠っており、世界最大の海底博物館を作り上げています。1971年、議会によってこの一帯はチューク州保存地域と指定されました。第二次世界大戦中、ラグーンの内側では、大日本帝国艦隊が四つに分散し、駐留していました。その結果、いまだに日本語の名前がついた島々があります。例えば、季節の名前のついた、春島、夏島、秋島、冬島、そして 曜日のついた島々もあります。環礁の中の島々は、たくさんの自然に恵まれ、とりわけ海の美しさは世界中のダイバーの注目の的です。実は、2008年にフジテレビの世界絶景百選で一位に選ばれた島が環礁の中にあるジブ島 (JEEP) であります。ちなみに私はこのチューク州の出身です。

ポンペイ州は、ミクロネシア連邦の首都があり、政治の中心となっている州です。最大のポンペイ島があるため、土地



面積は335平方キロメートルもあります。ポンペイは、ミクロネシア連邦で最も大きく、また最も標高が高い島です。州の、総面積345平方キロメートル、八つの環礁を持つ火山島であるポンペイ島と、バリアリーフ内の25の小さな島々、そして137の広く散在した環礁の島々から成り立っています。島の周囲を49マイル (約80キロメートル) にもわたる道路が整備されています。また、ポンペイにはオセアニア最大の巨石遺跡「ナン・マトール」があります。ナン・マトール遺跡は、その謎の多くがいまだに解明されていません。太平洋のヴェニスと呼ばれるほどの豊富な海水路を持つこの人工都市は、かつて王朝があった場所とされており、かつては、巨大な玄武岩の石柱によって、王や神官の住居が形成されていたようです。古代ポンペイ文明については、今も研究の途上にあり、調査が続けられています。ポンペイは雨が多く年間300日くらい降ります。

コスラエは、クロネシア連邦4州の中の1州です。面積は110平方キロメートルです。

ミクロネシア連邦の島々は、数百万年前の火山活動の結果できた島々と無数の環礁から成っています。そのうち何島かは、山頂が水面に押し出された形になっており、周囲が、浅いリーフで囲まれています。この他に環礁があります。環礁とは、リング状に小さな島やコーラルバリアを残して海面下に沈んだ地形のことで、弓状の小さな島々が、サンゴと砂でできたラグーン (内海) をぐるっと囲んでいます。さらに、ラグーンの内側に、環礁と海拔の高い島が混在している珍しいケースもあります。

地質学的にもミクロネシアの土地の形態は、多様で、原始そのままに美しいとされています。2000フィートの山、深い谷、丘、草地、うっそうと生い茂るマングローブ林、環礁に





守られたラグーン、原始の頃そのままのビーチなど、様々な自然がそこにあります。

## 2. ミクロネシアへの行き方

さて、日本からミクロネシア連邦にはどうやって行くのでしょうか？ 現在は、日本からまずグアムに行きます。そこから、ヤップ、チューク、ポンペイ、コスラエ、と国内便に乗り替えます。待ち時間を入れると丸一日の旅程です。長年の懸案であります、成田からの直行便が来年6月就航予定で、その暁には成田より4～5時間で行けるようになります。

2000年の統計では、チュークが一番人口が多くミクロネシアの半分以上を占めます。言語は八つの言葉があります。英語が公用語ですが、60歳以上の方々はいまだに日本語を書いたり話したりすることができます。

### 歴史

1525年、香料諸島（インドネシア）を目指して航海していたポルトガル人がヤップ島とユリシー島（ヤップ州）に上陸しました。その後、スペインの遠征隊が、ヨーロッパ人として初めて、残りのカロリン諸島の島々と交流を持ちました。スペインは、ヤップに植民地政府を置き、1899年までカロリン諸島上の領有を主張しました。しかし1899年、スペインは撤退し、当時アメリカの支配域であったグアムを除いた地域での権益を、ドイツに売り渡しました。

ドイツ政府により、コブラ生産・貿易の発展が促されました。しかし、1914年、日本海軍がマーシャル、カロライン及びマリアナ諸島北部を軍事下に治め、ドイツの統治は終わりました。

1920年、国際連盟の委任による日本の統治が始まりました。先住民の人口は、当時約5万人ほどしかなかったのに対し、日本人の人口は、この時代の広範囲にわたる植民政策により、ミクロネシア全体で10万人を超えました。この時代、サトウキビ、採鉱、漁業、熱帯農業が主要産業となりました。しかし、第二次世界大戦の終戦により、日本統治下でもたらされた繁栄が急に終わりを告げました。ほとんどの産業基盤は爆撃によって廃墟と化し、島も人々も貧困に突き落とされてしまったのです。

1978年7月12日に、信託統治領下のトラック（現在のチューク）、ヤップ、ボンペイ（現在のポンペイ）及びクサイエ島（現在のコスラエ）の4島の住民投票により、ミクロネシア連邦（FSM）憲法の下で連邦制を採用することが決定しました。国連はこれを認め、ここに、国際連盟・国連による長年にわたる管理下のもと失われていた主権を再び取り戻すことができたのです。

1979年5月10日、ミクロネシア連邦が施行され、旧地区は連邦を構成する州となり、独自の州憲法を採択しました。そして、連邦及び各州の議員を選ぶための統一選挙も行われ、全ミクロネシア議会の議長であったトシオ中山が初代大統領に就任し、内閣を組閣しました。これを受けてアメリカは、移行期間（1979年～1986年）に入り、政府機能を緩やかに移行し始めました。

ミクロネシア憲法施行を受け、アメリカは、ミクロネシア連邦とその各州政府を承認しました。以降、アメリカとの自由連合関係に移行し、自由連合は1982年10月1日に調印、1983年の国民投票による承認後、さらにアメリカ議会の承認を経て、1986年11月3日に施行されました。そしてついに、1991年9月17日、ミクロネシア連邦は国連に加盟し、国際社会の一員となったのです。

### 政治

ミクロネシア連邦憲法は、アメリカ同様、（各州政府の上には置かれる国全体の政府）レベルにおいて、司法・行政・立法の三権分立制を採っており、また、アメリカの権利章典と同じく、国際規準に批准する基本的人権などの権利も宣言しています。ここには、伝統的な権利を保護する条項も含まれています。しかしながら、アメリカの制度と異なり、外交問題と防衛（国防）問題以外の主な政府機能は、各州政府によって行われています。

ミクロネシア連邦は民主主義に基づく連邦国であり、元首は大統領です。大統領及び副大統領は議会によって任期4年の連邦議会議員の中から選出され、任期は4年です。任期4年の議員（各州で選出される）と、任期2年の議員（議席は、人口比率によって配分される）の14人から成る一院制です。現在、チュークは6議席、ボンペイは4議席、そしてヤップとコスラエはそれぞれ2議席ずつ持っています。また、空席は特別選挙で補選されます。

現在の大統領は日系四世の森大統領で2期目です。それぞ



れ異なる文化の4州がなるべく平等を取るために国会の委員会委員長もバランスを取りながら各州から選ばれます。憲法には載っていませんが、大統領も紳士協定というのがあります。とりあえず持ち回りの形を採っています。

外交の基本方針ですが、アメリカをはじめとする近辺の島嶼国、またアジア、特に日本との友好関係を密接に継続していくことを心掛けています。

### 3. 日本との交流

1914年から約30年間日本の統治下にあったということもあり、人口の2割が日本の血を引いています。1988年、日本との外交関係が結ばれて、1995年にミクロネシア連邦に日本大使館ができました。2008年に初めて駐ミクロネシア連邦初代大使が派遣されました。

地理的にも日本は遠くないし、歴史的にも非常に関係の深い国なので、日本や日本人に対して親近感を持っています。ちなみに私にも日本の血が入っています。私の母方の祖父が神奈川県出身です。初代大統領の中山さんをはじめ、現大統領などたくさんの方々の日本とのつながりのある方々がミクロネシア連邦に大変貢献されています。国交を結んで以降、政府レベルから民間レベルまで幅広く様々な分野の方々との交流が盛んに行われています。

### 4. ミクロネシア連邦の魅力

ミクロネシア連邦の魅力は、子供たちの笑顔や人々の優しさ、また自然の豊かさです。海に出れば、イルカと出会った



りとか釣りもできます。近代化してきてコンクリートの建物もたくさん増えましたが、昔ながらの家を伝統的な工程で作ることもいまだに残っています。昔はカヌーを作って行き来をしていました。今は、近代的な交通手段が使われています。

独立して今年25周年を迎えるわけですが、その間、様々な発展を遂げてきました。インフラをはじめとする、文明の進展は目をみはるものがあります。

例えば、日本のODAで滑走路延長が行われ、さらにそれに伴い様々なインフラが充実してくると思います。

### 5. レインボーネシアプロジェクト

「レインボーネシア」という計画がありますが、命のリチャージを提供する「環境観光立国になろう！」というキャッチフレーズです。大統領をはじめ、各州知事は、このプロジェクトに賛同し、これから益々、日本とミクロネシア連邦との密接な関係を築いていけたらと希望しています。

是非皆さんが第1便の飛行機に乗っていただき、自分の目で、ミクロネシア連邦の魅力を感じ取っていただきたい。レインボーネシアプロジェクトに関してはウェブサイトに乗っています。



美しい、心豊かな人々を迎えるミクロネシア連邦に是非お越しください。そこには海があります。その海は日本とミクロネシアを隔てるものではなく、正に国と国をつなぐものであると私も信じております。キニソウチャーブルカラーガンカンマガル レンウオ（ありがとうございました）。

(2011年6月16日 第392回ITUクラブ例会より)